６．福　島　県

福島県管内図



※各番号に対応した事業内容等については次ページ一覧参照

【福島県】

No	区分		事業名（市町村名）	整備内容	事業規模	頁
1	港湾	直轄	相馬港3号ふ頭地区岸壁整備事業（耐震強化） （相馬市）	継続	L=240m、水深12m	110
2	河川	直轄	阿武隈川上流本宮左岸地区直轄河川改修事業 （本宮市）	継続	築堤L=2,100m 附帯構造物　1式	111
3	河川	直轄	阿武隈川上流二本松・安達地区土地利用一体型水防災事業 （二本松市：安達ヶ原・榎戸・油井地区）	完成	輪中堤L=4,190m 附帯構造物　1式	112
4	河川	補助	夏井川広域基幹河川事業 （いわき市）	継続	河道改修　L=21.8km	113
5	河川	補助	田の口沢 総合流域防災事業 （南会津郡只見町）	完成	えん堤工　2基、護岸工　129.2m	114
6	河川	直轄	阿武隈川水系直轄火山砂防事業　荒川遊砂地 （福島市）	完成	大暗渠えん堤1基、床固　2基	115
7	道路	直轄	一般国道6号 平鎌田交差点改良 （いわき市）	完成	交差点改良（右折レーン設置） 歩道整備	116
8	道路	直轄	一般国道13号 森合交差点改良 （福島市）	完成	交差点改良（右左折レーン延伸等）	117
9	道路	直轄	一般国道289号 甲子道路（直轄権限代行） （南会津郡下郷町～西白河郡西郷村）	全線供用	完成2車線　L=5.9km	118
10	道路	補助	福島空港・あぶくま南道路 主要地方道矢吹小野線 福島空港平田工区 （石川郡玉川村～平田村）	部分供用	暫定2車線　L=6.8km	119
11	道路	直轄	一般国道13号 福島西道路 （福島市）	全線供用	暫定2車線　L=0.2km	120
12	都市住宅	補助	会津坂下町公共下水道事業 （会津坂下町）	継続	下水道未普及解消クイックプロジェクト社会実験：管渠 1式	121
13	港湾	補助	小名浜港1・2号ふ頭地区港湾環境整備事業 （いわき市）	継続	緑地＝16,500㎡	122
14	都市住宅	補助	都市公園整備事業　亀ヶ城公園 （耶麻郡猪苗代町）	完成	体験学習施設　1棟 学びの広場　A=1.9ha	123
15	都市住宅	交付金	まちづくり交付金（いわき駅前地区） （いわき市）	完成	ペデストリアンデッキ、道路、高度情報センター	124
16	道路	直轄	一般国道49号　平バイパス （いわき市）	部分供用	完成4車線　L=0.9km	125
17	都市住宅	補助	富田東地区土地区画整理事業 （郡山市）	補助完了	A＝80．6ha	126

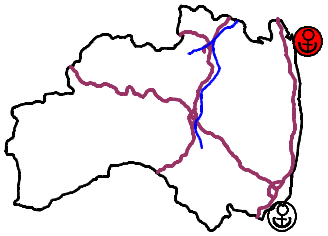
安全で安心できる地域づくり　大規模地震・津波への備え

事業名	相馬（そうま）港3号ふ頭地区岸壁整備事業（耐震強化）（直轄） （福島県相馬（そうま）市）

事業着手：平成8年度	完成・供用の目標年度：平成23年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

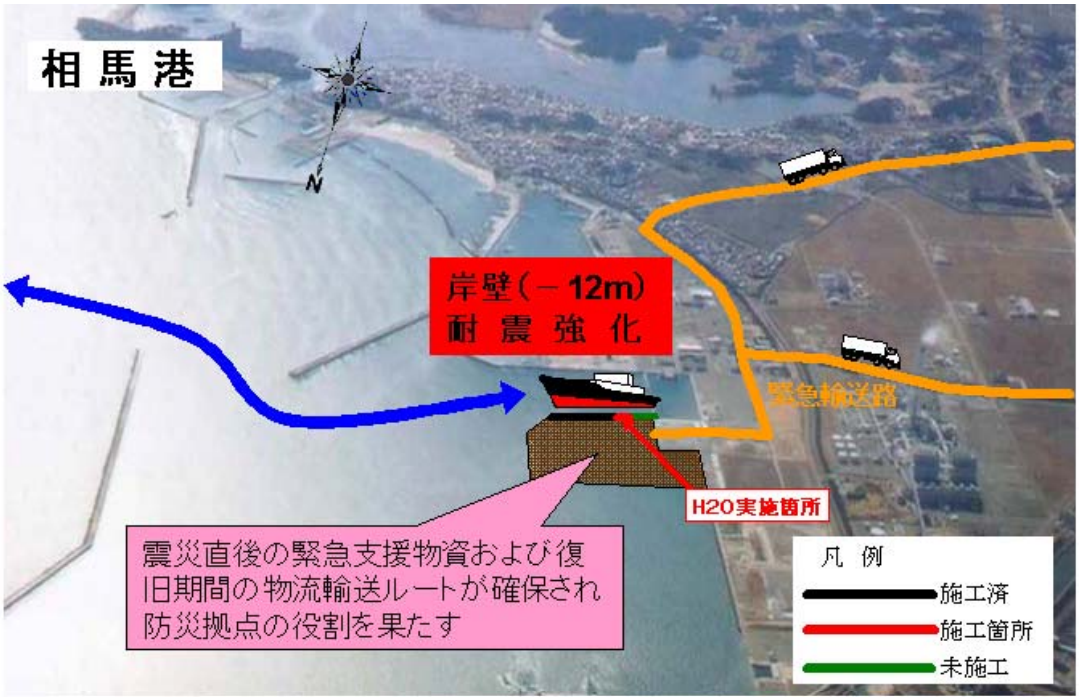


「事業の必要性」

相馬港に甚大な被害を及ぼすことが予想される宮城県沖地震は、今後10年以内に約50%、30年以内で99%という高い確率で発生すると予想されており、大規模震災時に背後の防災ネットワークと一体となった被災地の復旧・支援を行う防災拠点機能が求められているため、これらへの対策が必要となっています。

「事業の概要」

本事業は、震災直後の緊急支援物資輸送及び復旧期間における物流機能を確保するため、3号ふ頭地区に耐震強化岸壁（延長240m、水深12m）を整備します。





▲地震によって陥没した野積場
（相馬港　昭和53年　宮城県沖地震）



平成20年度の予定

○平成20年度は、岸壁上部および裏込を実施し、事業の進捗を図ります。

事　業　効　果

○耐震強化岸壁の整備により、震災直後には相馬港から港湾背後の被災地へ緊急支援物資（医療品、食料、住宅建材等）の運搬が可能となります。

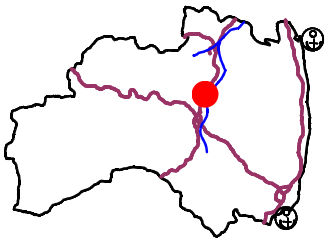
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	阿武隈川上流本宮左岸地区直轄河川改修事業（直轄） （福島県本宮市）

事業着手：平成17年度	完成・供用の目標年度：平成20年代後半予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

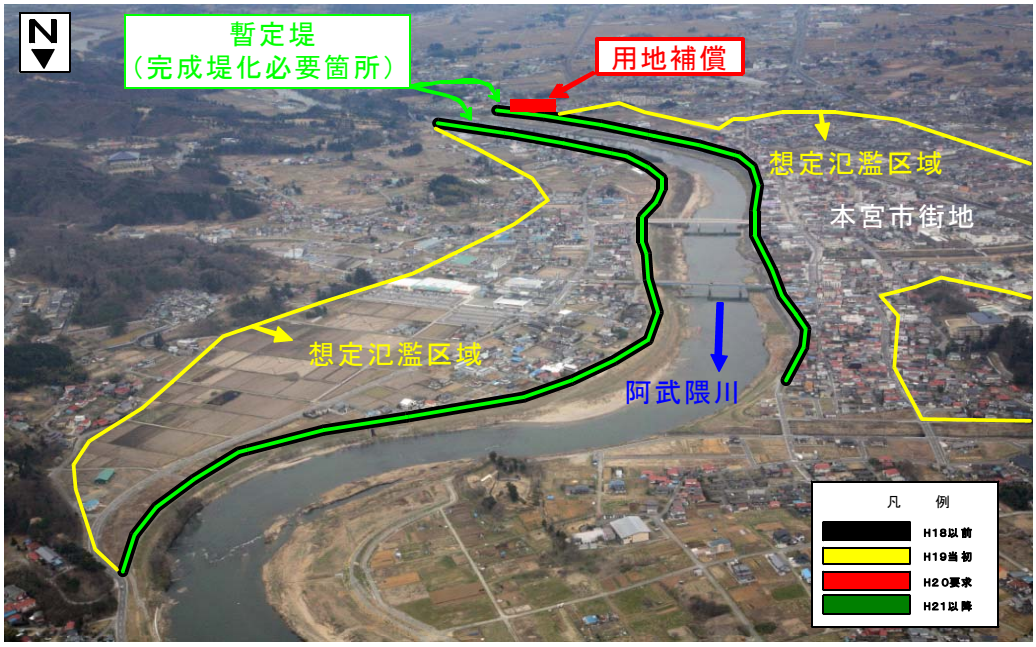
本宮地区は、右岸側が無堤、左岸側が暫定堤（HWL堤）となっていたため、昭和61年8月洪水、平成10年8月洪水と浸水被害を受けています。このため、右岸側の無堤箇所の築堤整備を進めてきました。こうした中平成14年7月洪水では、計画高水位（HWL）に迫る洪水が発生し、背後資産の多い左岸側においても溢水の危険が生じたことから、早急に治水安全度を向上させる必要があります。

「事業の概要」

暫定堤（HWL堤）から完成堤への整備を図り、当該地区の治水安全度を高めます。







平成20年度の予定

○平成20年度は、暫定堤から完成堤への整備に向けて必要な用地取得を行います。

事　業　効　果

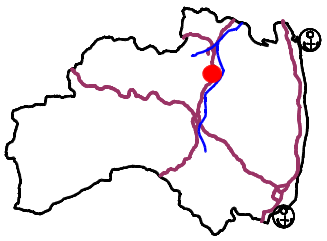
○堤防の完成堤化を図り、想定氾濫区域内人口約13，000人を浸水被害から守ります。

安全で安心できる地域づくり　ハード・ソフト一体となった災害対策の推進

事業名	阿武隈川上流二本松・安達地区土地利用一体型水防災事業（直轄） （福島県二本松市：安達ヶ原・榎戸・油井地区）
事業着手：平成14年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

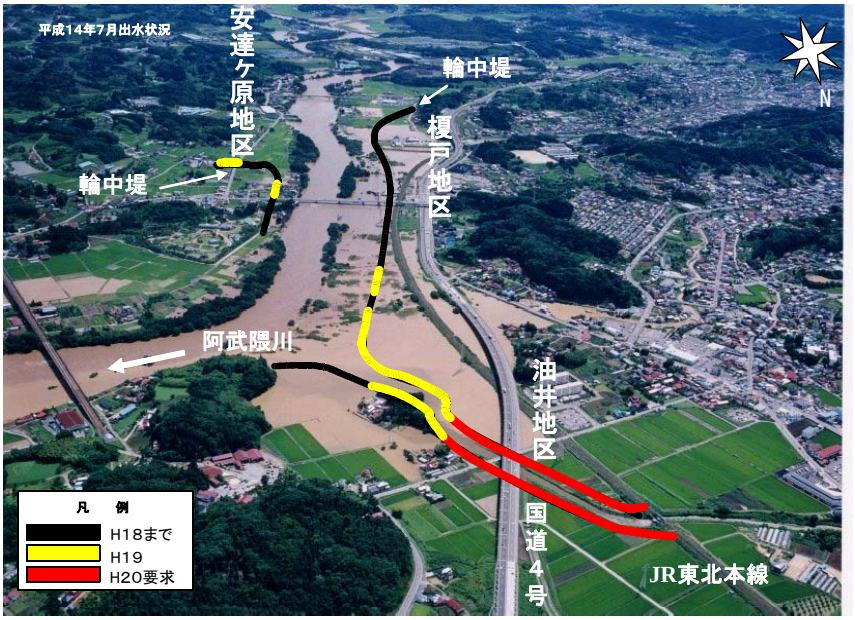


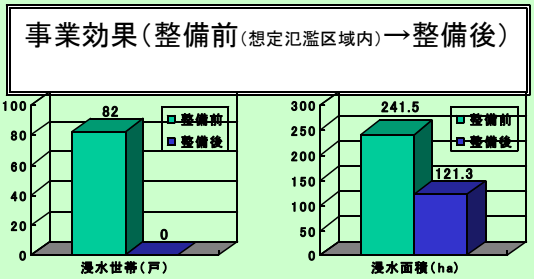
「事業の必要性」

当該箇所は、無堤地区となっており、平成10年8月及び平成14年7月洪水で国道4号線の一時通行止めや、家屋浸水などの多大な被害を受けており、早期の治水対策が必要となっています。

「事業の概要」

阿武隈川という河川の特徴を踏まえた治水対策をとして、狭窄部の二本松・安達地区において、従来の改修（連続堤）ではなく、輪中堤による治水対策を実施します。







平成20年度の予定

○平成20年度は、左岸油井地区の築堤、石ヶ崎橋上部工、油井川橋取付道路を実施し、事業の完成を目指します。

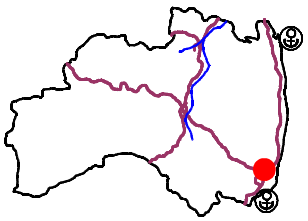
事　業　効　果

○二本松・安達地区における82戸の家屋浸水を解消し、120.2haの浸水被害を軽減します。

事業名	夏井川（なついがわ）広域基幹河川事業（補助：事業主体　福島県） （福島県いわき市）
事業着手：昭和54年度	完成・供用の目標年度：平成30年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

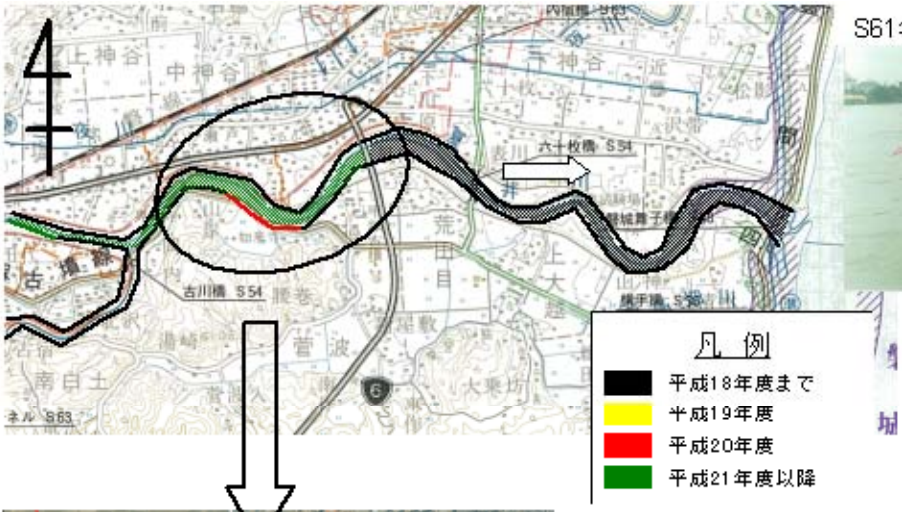


「事業の必要性」

夏井川は、いわき市の市街地を貫流し、その流下能力が不足してため、沿川では度々洪水被害を被っています。昭和61年8月には床上・床下1，705戸、続く平成元年8月には床上・床下浸水1，098戸の甚大な浸水被害が発生していることから、早急に治水安全度の向上を図る必要があります。

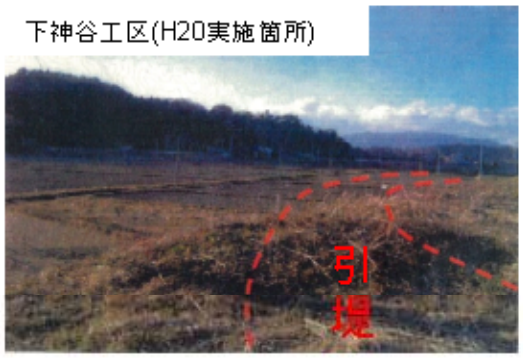
「事業の概要」

昭和61年8月規模の洪水が再来しても、夏井川からの氾濫による浸水等の被害を解消するため、河口から約21．8km区間について、河道掘削、築堤、護岸を整備します。









平成20年度の予定

○平成20年度は、市街地下流にあるネック区間を解消するため、引堤を実施します。

事　業　効　果

○事業実施により、昭和61年8月被災と同規模洪水において再度災害防止（床上608戸、床下1，097戸）が図られます。

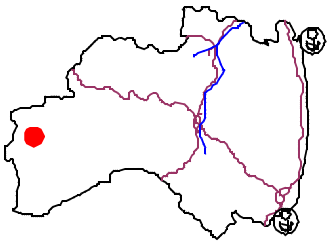
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	田の口沢（たのくちさわ）総合流域防災事業（補助：事業主体　福島県） （福島県南会津郡（みなみあいづ）只見町）

事業着手：平成12年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

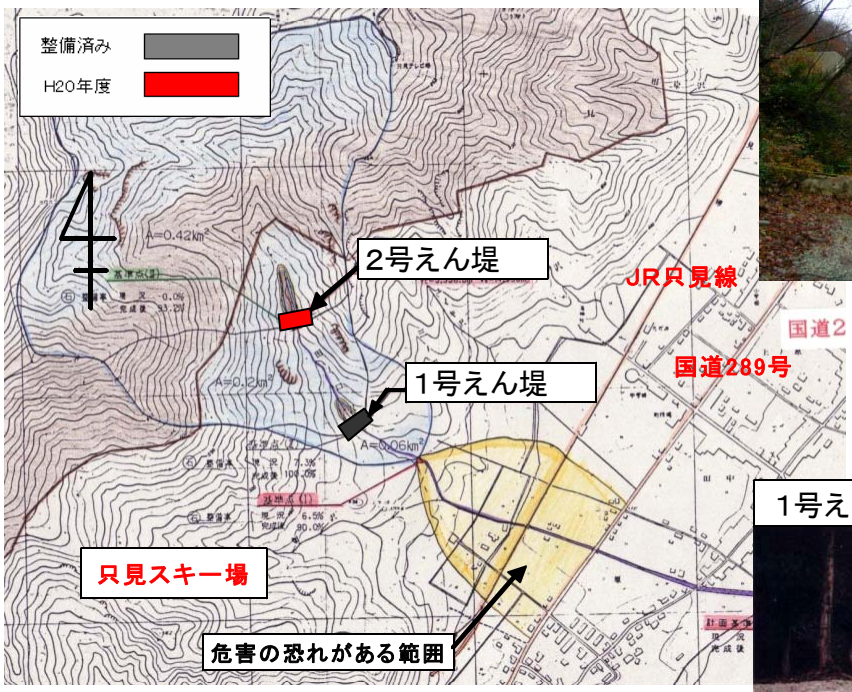


「事業の必要性」

田の口沢は、保全対象に人家5戸と地域の重要な交通手段であるJR只見線や町営只見スキー場を抱える土石流危険渓流です。流域は、山腹の荒廃、渓岸侵食・崩壊が著しく、河床には不安定土砂が多く堆積し、過去には土砂流出による浸水被害も発生しており、砂防えん堤工を設置し、土砂災害を未然に防止します。

「事業の概要」

土砂災害を未然に防止するため、えん堤工を2基整備します。



2号えん堤工



1号えん堤工



平成20年度の予定

○平成20年度は、2号えん堤工を実施し、事業の完成を図ります。

事　業　効　果

○事業実施により、人家5戸、JR只見線及び只見スキー場が保全されます。

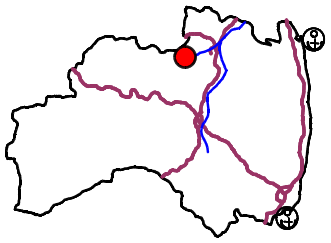
安全で安心できる地域づくり　自然災害への備え

事業名	阿武隈川（あぶくまがわ）水系直轄火山砂防事業　荒川（あらかわ）遊砂地（直轄） （福島県（ふくしま）福島市）

事業着手：平成元年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

荒川は上流からの土砂の流出が著しく、河床が上昇することにより氾濫を繰り返して来ました。荒川下流には福島市街地や国道4号・13号・115号・東北自動車道など重要交通網があり、これら下流保全対象の安全度を早期に向上させるとともに、谷出口に流出土砂調節のため、荒川遊砂地の整備を進めています。

「事業の概要」

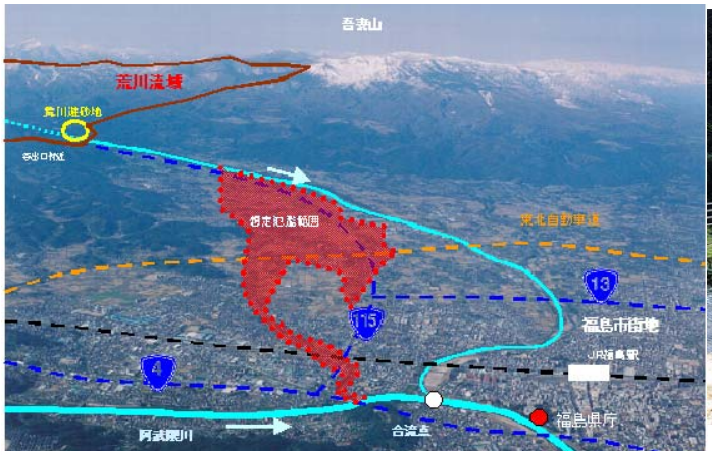
諸元　大暗渠えん堤　1基：堤長252m、堤高9m、堤幅3m、暗渠9門
　　床固工　　2基



荒川遊砂地全景



事業箇所図



土砂流出による河床上昇時の想定氾濫範囲



下流　河川区域における破堤（H10．9）

平成20年度の予定

○平成20年度は、第3床固の整備を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

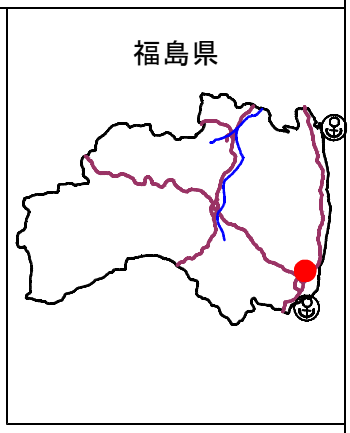
○大規模な出水があった場合、上流からの土砂を調節し、下流市街地及び重要交通網（国道4・13・115号、東北自動車道、東北新幹線、東北本線）を保全します。

安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道6号　平鎌田（たいらかまた）交差点改良（直轄） （福島県いわき市）

事業着手：平成15年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要



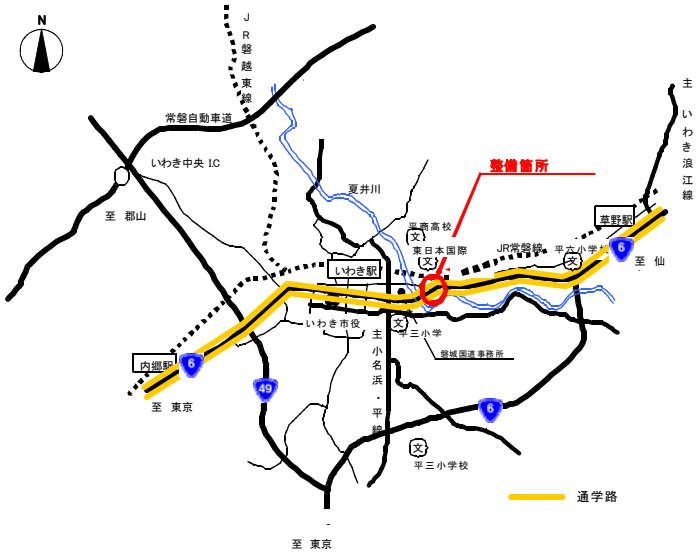
「事業の必要性」

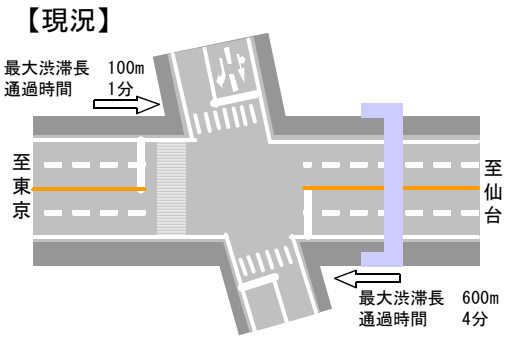
当該箇所は福島県いわき市の北部から市街地に出入りする主要な交差点です。国道6号に右折車線がないため、国道から市道に右折する車両により直進車が阻害され、特に朝の通勤時間帯において渋滞が発生しているうえ、無理な右折や車線変更による事故が多発しています。

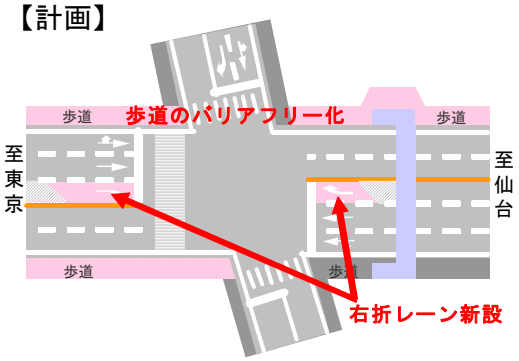
また、近隣には中学校、短期大学、大学が立地し、通学による歩行者も多く、歩道勾配が急で安全な通行が確保できず、バリアフリー化が必要な区間です。

「事業の概要」

国道6号の上下線に右折車線を整備し、渋滞緩和・事故減少を図るとともに歩道の整備（バリアフリー化）を行います。







【平面図】



【 現況写真 】

平成20年度の予定

○交差点改良（右折レーン新設）を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

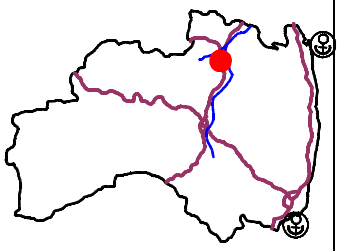
○安全で円滑な交通を確保し、死傷事故の削減を図ります。
○児童、高齢者等が安全・安心・快適・に利用できる歩行空間を確保します。

安全で安心できる地域づくり　日常生活における安全・安心対策の強化

事業名	一般国道13号　森合（もりあい）交差点改良（直轄） （福島県福島市）
事業着手：平成18年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

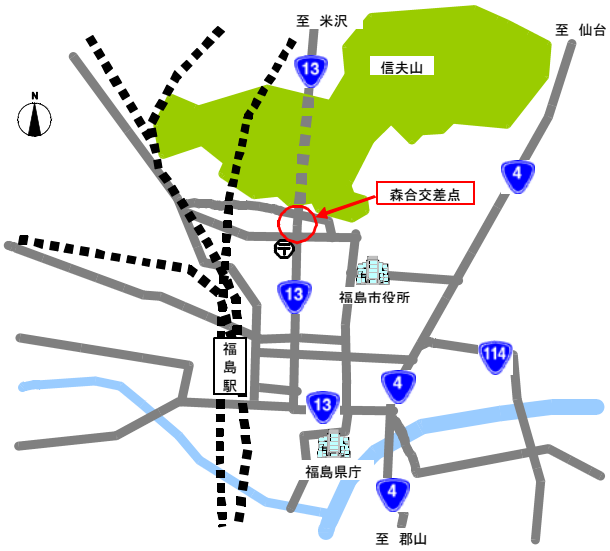


「事業の必要性」

当該箇所は、福島県福島市の市街地の北部に位置し、北部から市街地に出入りする主要な交差点です。右折レーンでの速度低下による車両の追突事故や、対向直進車両と右折車の事故が多発しています。また、上り側の信夫山トンネルまでの間は、渋滞による追突事故が発生しているため、右左折レーンを延伸し、流れを円滑にする必要があります。

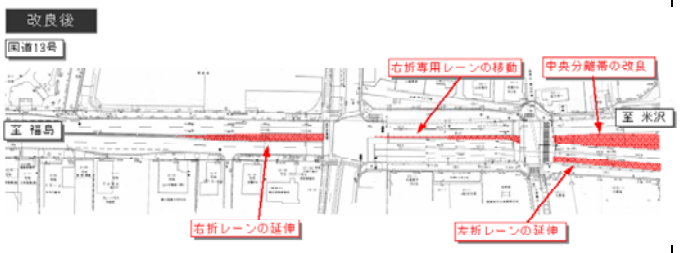
「事業の概要」

当該交差点の渋滞緩和、追突事故や右折事故を削減するため、上下線の右左折車線の延伸、中央分離帯の改良により交差点改良を行うものです。



【 位置図 】





【 平面図 】



【 現況写真 】

平成20年度の予定

○交差点改良（右左折レーン延伸等）を実施し、事業の完成を目指します。

事　業　効　果

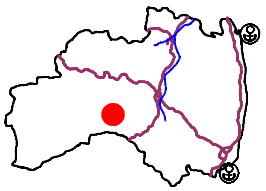
○安全で円滑な交通を確保し、死傷事故の削減と渋滞緩和を図ります。

強い東北の創造　地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成

事業名	一般国道289号　甲子道路（直轄権限代行） （福島県南会津郡下郷町～西白河郡西郷村）
事業着手：平成7年度	完成・供用の目標年度：平成20年度全線完成供用

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

一般国道289号における当該区間は、延長約6．9km（甲子峠）が交通不能間となっています。

現在、南会津地方から県南地方間は、険しい峠に阻まれ、遠く迂回することを余儀なくされています。

当該地方の広域的な交流・連携の推進を図るうえでも通行不能区間解消等の早急な対策が必要となっています。

「事業の概要」

甲子道路は交通不能区間解消を目的とした延長約5．9kmの2車線道路で直轄権限代行区間として事業を進めています。

甲子道路の整備により、距離と時間が短縮され、地域間交流・連携が強化されます。

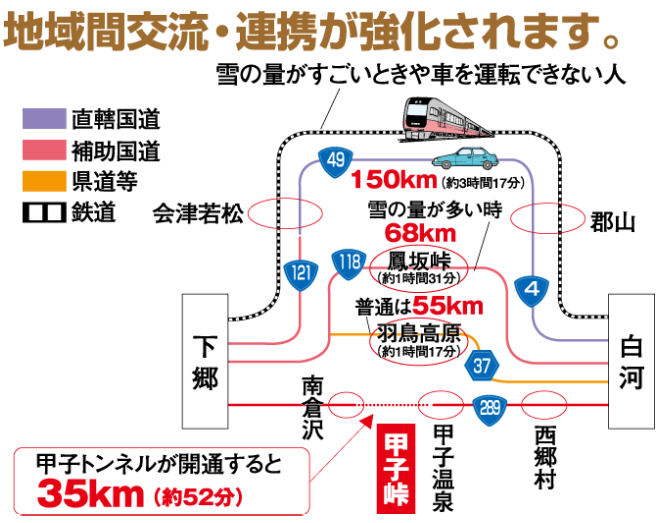




▲現在の国道289号



▲甲子トンネル坑口（西郷側）



▲甲子道路の整備効果

平成20年度の予定

○管理施設及び舗装工事を実施し、全線完成供用を図る予定です。

事　業　効　果

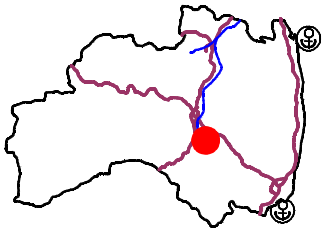
○通行不能区間の解消により、南会津地方と県南地方の地域間交流が期待されます。
○時間短縮効果があります。（下郷町～白河市間　現況約77分→整備後約52分　約25分の短縮）

強い東北の創造　地域間の交流・連携の強化、広域的な生活圏の形成

事業名	福島空港・あぶくま南道路　主要地方道矢吹小野線　福島空港平田工区 （補助：事業主体　福島県）　（福島県石川郡玉川村～平田村）
事業着手：平成17年度	完成・供用の目標年度：平成20年度部分供用予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

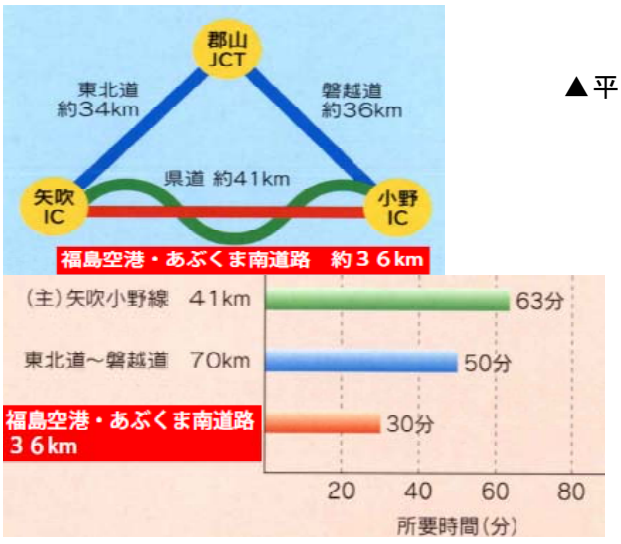
阿武隈地域と県南・北関東地域を結ぶ交通網の強化、地域間の連携交流の促進、福島空港のアクセス向上、緊急時の代替路線確保や救急医療体制の支援を図るため、「東北自動車道矢吹IC」と「福島空港」及び「磐越自動車道小野IC」を結ぶ高速ネットワークの整備が必要とされています。

「事業の概要」

地域高規格道路　福島空港・あぶくま南道路（あぶくま高原道路）は、延長約36kmの自動車専用道路です。これまでに22．2kmを供用しており、平成17年度から、残る福島空港IC～平田IC間の13．7kmについて事業を行っています。







▲矢吹IC～小野IC間の時間短縮効果
（現道と比べて約半分の時間短縮）

▲平



▲緊急時における高速ネットワークの代替路線の確保
（東北自動車が通行不能の事例）

平成20年度の予定

○平成20年度は、福島空港IC～（仮）飯野三春石川IC間のL=3．5km及び（仮）下蓬田PA～平田IC間のL=3．3kmについて、舗装工事等を実施し、部分供用を図る予定です。

事　業　効　果

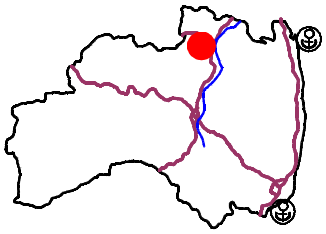
○阿武隈地域と県南・北関東地域が高速交通ネットワークで結ばれることで、福島空港の利活用の促進や地域間の連携交流の促進、緊急時の代替路線の確保が図られます。

事業名	一般国道13号　福島西道路（直轄） （福島県福島市）

事業着手：昭和57年度	完成・供用の目標年度：平成20年度全線供用予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

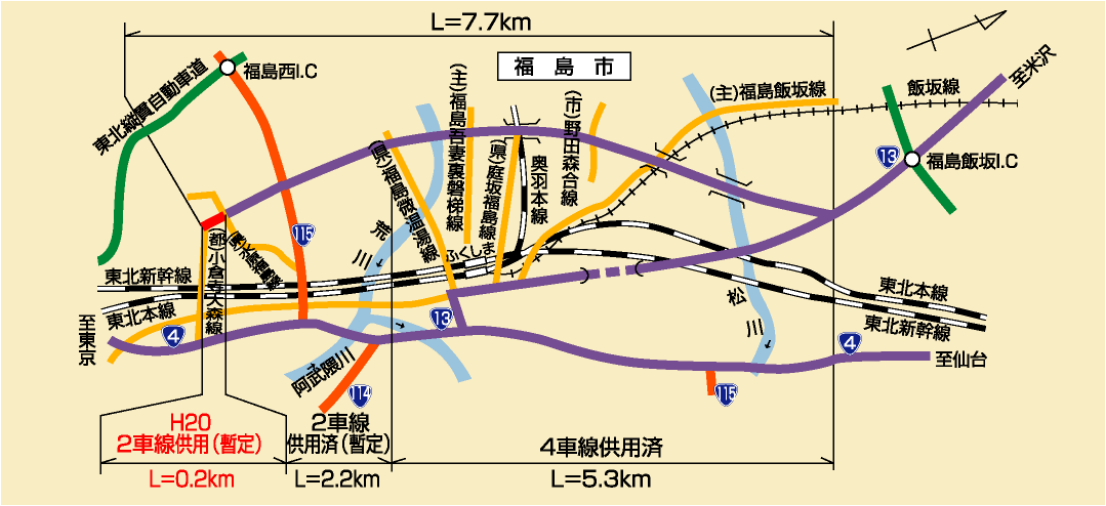


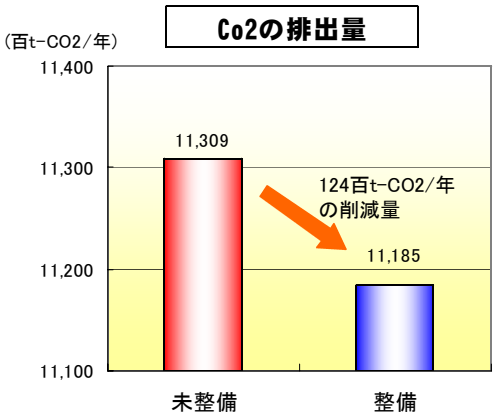
「事業の必要性」

福島西道路と並行する国道4号、13号は、交通容量の不足から慢性的な交通渋滞を引き起こしているとともに、騒音等沿道環境が悪化し、早急な対策が必要となっています。

「事業の概要」

福島西道路は、福島市街地における交通混雑解消、交通環境改善、交通事故の低減等を目的とした延長7.7Kmのバイパス事業です。





▲福島西道路完成によるCo2削減効果



▲福島西道路完成によるCo2削減効果

平成20年度の予定

○これまでに7.5Kmを供用（うち4車線供用6.0Km）しており、平成20年度には、L=0.2Kmについて2車線暫定供用を図り全線供用を図る予定です。

事　業　効　果

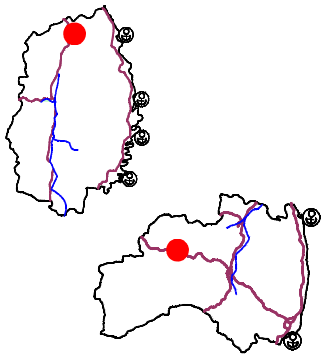
○Co2排出量が年間12，400t削減されます。

事業名	下水道未普及解消クイックプロジェクト社会実験（補助：事業主体　二戸市、会津坂下町） （岩手県二戸市、福島県会津坂下町）

事業着手：平成19年度	完成・供用の目標年度：平成24年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

岩手県・福島県



「事業の必要性」

下水道の整備水準は地域間格差が顕著であり、特に普及の遅れている中小市町村を中心に鋭意整備を行っているところですが、人口減少、高齢化の進展や厳しい財政事情におかれている市町村も少なくありません。

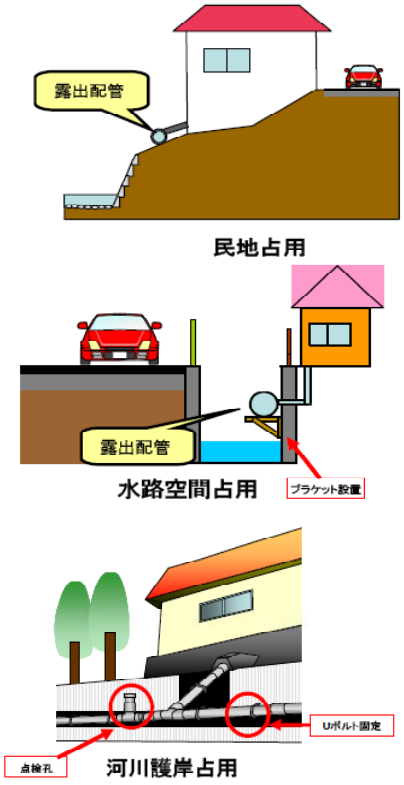
下水道は、生活環境の改善、水環境の保全のみならず、地域の活力を向上させるとともに、里山等の伝統的な自然環境を保全する上でも大きな機能を果たすものであり、このような厳しい状況にあっても整備を進めることが必要です。

「事業の概要」

国土交通省では下水道を低コストで早期に整備するための「下水道未普及解消クイックプロジェクト社会実験」を試行しています。

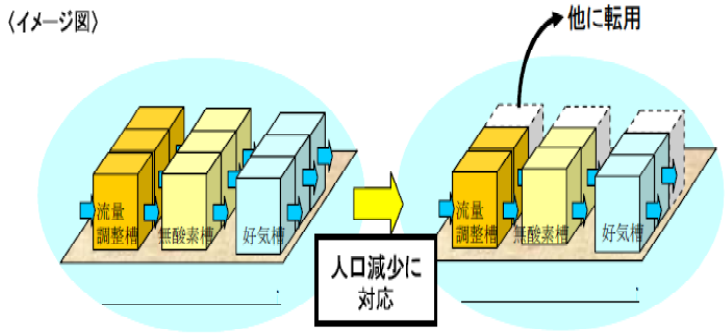
露出配管や小規模処理施設など地域の実状に合わせ新たな下水道整備手法を導入します。

東北地方では、岩手県二戸市、福島県会津坂下町がこの社会実験で整備を実施しています。



＜露出配管イメージ＞

岩手県二戸市、福島県会津坂下町にて実施



処理施設の各ユニットを工場製作して、現場搬入・組み立てることによって、コストの縮減、工期の短縮を図るとともに、転用可能とすることにより人口変動に対する、機動的な対応を可能とする。

＜小規模処理施設イメージ＞

岩手県二戸市にて実施

平成20年度の予定

○二戸市、会津坂下町が未普及解消クイックプロジェクト社会実験として実施する管渠や処理場の整備等の支援を行います。

事　業　効　果

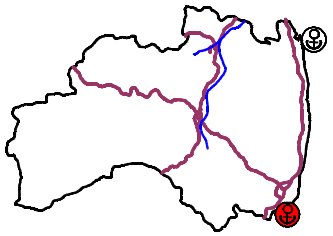
○地域の実状に合わせた低コストでの下水道整備が期待されます。下水道を使用できる人口が増加し、生活環境の向上や公共用水域の水質改善を図ります。

美しい東北の実現　観光振興・交流拠点の整備

事業名	小名浜港1・2号ふ頭地区港湾環境整備事業（補助：事業主体　福島県） （福島県いわき市）
事業着手：平成17年度	完成・供用の目標年度：平成21年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

みなとの資産である倉庫群を、地域交流と賑わいの拠点として改修し、有効活用することにより地区内の観光施設である「アクアマリンふくしま」と「いわき・ら・ら・ミュウ」の間に新たな核が形成され、地区の一体的な利用で一層の賑わい空間が創出されるため、この事業が必要です。

「事業の概要」

当地区は、親水空間の整備が進められ年間約200万人を超す観光客が訪れる県内有数の観光地ですが、隣接する倉庫地区等により市街地と港が分断され港の賑わいが市街地まで波及していない現状にあるため、倉庫群を利活用し背後の市街地と一体となった環境整備を行います。





▲【整備前】

▼【整備後（イメージパース）】



平成20年度の予定

○平成20年度は、緑地（駐車場等）の整備を実施し、事業の促進を図ります。

事　業　効　果

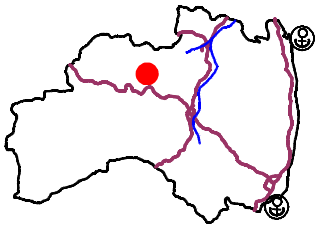
○背後の市街地と一体となったみなとまちづくりを形成します。

事業名	都市公園整備事業　亀ヶ城（かめがじょう）公園（補助：事業主体　猪苗代町） （福島県耶麻郡猪苗代（いなわしろ）町）

事業着手：平成9年度	完成・供用の目標年度：平成20年度概成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

猪苗代町は磐梯山や猪苗代湖に代表されるすばらしい自然環境を有し、「猪苗代町の町民憲章」が求める「住みよい町」「美しい豊かな町」「歴史を尊重し文化を育てる町」の実現のため、地域住民の交流拠点となりうる「スポーツ・レクリエーション、自然・歴史・文化体験学習の場」等を形成する公園整備が必要とされています。

「事業の概要」

本公園は、町の中心市街地西部に位置し、スポーツ・レクリエーションの拠点として既に整備されている総合体育館に接続して、自然・歴史・文化を体験する拠点となる「体験学習施設」の整備を行います。

なお、体験学習施設は平成21年3月に開催される「フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会」の表彰式や記者会見会場としても位置付けられています。フリースタイルスキー世界選手権は、オリンピックに次ぐ規模と権威を持つ2年に一度開催される世界大会で、日本で開催されるのは1997年の長野大会以来2度目の大きな大会となります。



平成20年度の予定

○平成20年度は、引き続き「体験学習施設」の建築く体、電気・機械設備等の整備を行い、平成20年10月の完成を目指します。
○体験学習施設周辺の駐車場、学びの広場等の整備を行います。
【公園全体面積：17.3ha　，　平成20年度末供用予定面積：11.8ha】

事　業　効　果

○会津地域の自然・歴史・文化の体験学習活動が可能となり、新たな地域交流拠点を形成します。
○平成21年3月に開催される「フリースタイルスキー世界選手権」の表彰式会場として利用するとともに、平成21年以降は、インターハイ等全国の主要大会の開・閉会式会場として利用します。

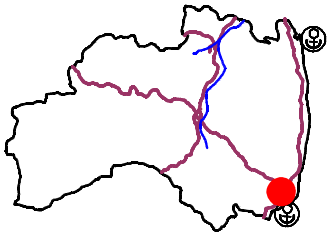
魅力ある都市づくり　「コンパクトシティ」の推進

事業名	まちづくり交付金「いわき駅前地区」（補助：事業主体　いわき市） （福島県いわき市）

事業着手：平成16年度	完成・供用の目標年度：平成20年度完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

いわき駅周辺地区は、商業・業務施設および公共施設が集積しているにもかかわらず、交通結節機能やバリアフリー化が不十分なため、中心市街地の空洞化が進展しています。このため都市・生活文化の交流・創造・発信拠点づくりを基本目標とし、人々が「学び」「創り」「遊び」「交流」する拠点として整備し、潤いと安らぎを与える都市空間を形成する中心市街地の再生が急務となっています。

「事業の概要」

「いわき駅前地区第一種市街地開発事業」により、商業施設との複合施設として、総合型図書館、交流拠点施設、市民サービスセンター等の拠点整備を推進します。

また、高度情報センター、まちなか情報などを整備し、駅前広場の緑化、来街者をもてなす人工滝などの周景施設整備を行うとともに駅前広場の拡張、南北を結ぶ自由通路整備やバリアフリー化への対応による交通環境の整備・改善を実施します。



平成20年度の予定

○平成20年度は、ペデストリアンデッキ、高度情報センター等の整備を行い、事業の完成を図ります。

事　業　効　果

○市民生活の交流・連携、情報等の機能強化を図り、拠点としての賑わいの創出に寄与します。
○商業機能の再生のほか、地元産業の育成、教育文化・公共施設の集積等により、中心市街地の魅力の再生に寄与します。
○交通結節機能の強化、高齢化社会等に対応したバリアフリー推進により都市環境の改善に寄与します。

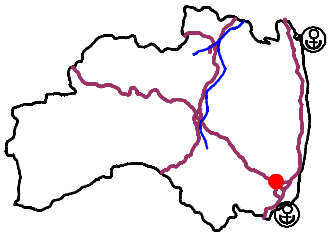
魅力ある都市づくり　都市内交通の円滑化

事業名	一般国道49号　平(たいら)バイパス（直轄） （福島県いわき市常磐上矢田町(じょうばんかみやだまち)～いわき市好間町北好間(よしまちきたよしま)）

事業着手：昭和56年度	完成・供用の目標年度：平成20年度一部完成予定

事業の必要性・事業の概要

福島県



「事業の必要性」

一般国道49号平バイパスにおける交通需要は、平成7年の全線暫定供用後も年々増加し続けており、交通が集中する区間や主要交差点付近等で交通混雑が発生しています。また、平バイパスは重要港湾「小名浜港」と常磐自動車道いわき中央ICやいわき好間中核工業団地等を連携するアクセス道路であり、アクセス機能強化が求められています。

「事業の概要」

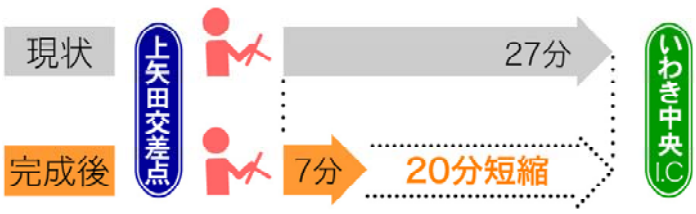
一般国道49号平バイパスは、いわき市の市街地部の交通渋滞・沿道環境など、交通をとりまく環境の改善と主要幹線道路としての機能強化を目的とした、いわき市常磐上矢田～同市好間町に至る延長7．7kmの道路です。平成7年9月に全線暫定供用をし、引き続き混雑区間の4車線化、主要渋滞交差点の立体化等を推進し、一層の機能強化を図っています。



▲位　置　図



▲内郷地区の渋滞状況



▲平バイパス全線4車線化完成後の効果



▲供用箇所の全景

平成20年度の予定

○いわき市内郷御厩町～好間町中好間間について橋梁工事及び付属施設、舗装工事を実施し、そのうち、いわき市内郷御台境町～好間町中好間間の0．9kmについて完成4車線供用を図る予定です。

事　業　効　果

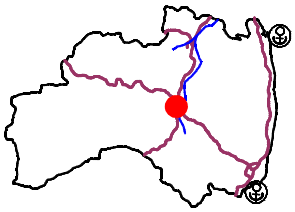
○渋滞が解消され、平市街地及び重要港湾小名浜港と常磐自動車道いわき中央IC（好間工業団地）のアクセス機能強化が図られます。
○平市街地の通過時間が短縮されます。（現況：27分→全線4車線化後：7分　約20分短縮）

魅力ある都市づくり　都市内交通の円滑化

事業名	富田東（とみたひがし）地区土地区画整理事業（補助：事業主体　組合） （福島県郡山市）
事業着手：平成4年度	完成・供用の目標年度：平成20年度補助完了予定

事業の必要性・事業の概要

福島県

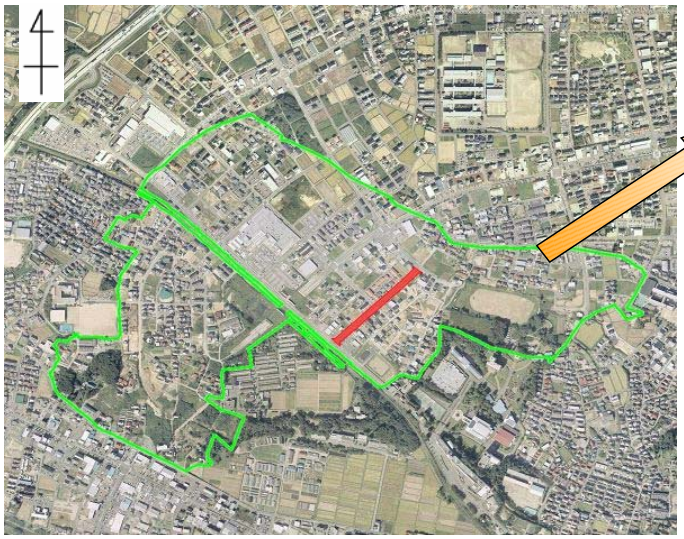


「事業の必要性」

本地区は、郡山市の中心市街地から北西約1．5㎞に位置し、地区内は農地と宅地等が混在しているとともに地区の周辺部では市街化の進展に伴い交通量が増加しています。そのため、適正な市街化を誘導し、快適な居住環境整備を図るための道路ネットワークや都市基盤整備が急務となっています。

「事業の概要」

土地区画整理事業として約80．6haの地区内において、都市計画道路や都市基盤の整備を行い、交通ネットワークの形成と健全な市街地の造成、快適で調和の取れたまちづくりを促進します。



富田東地区全景（H16.10.1撮影）



整備前の富田東1号線（南）



整備後の富田東1号線（南）

平成20年度の予定

○平成20年度は、都市計画道路内環状線、富田東2号線の整備を実施し、地区内の都市計画道路の完成を目指します。

事　業　効　果

○都市基盤の整備により、健全な市街地の造成と生活利便性及び居住環境の向上が図られます。
○都市計画道路内環状線、荒井郡山線等の整備により、市中心部と周辺市街地との交通ネットワークが整備され、快適で調和の取れたまちづくりが促進されます。